



大阪公立大学共同出版会

No.34

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目 次

• 2017年の新春に想う 足立 泰二 1	• 新刊書の紹介 3
• 自著を語る (19) 古代ギリシャ語語彙集 改訂版 基本語から歴史／哲学／文学／新約聖書まで 斎藤 憲 2	• 第33回OMUPサロン 「ギリシャ語の魅力と『古代ギリシャ語語彙集』」の報告 4
• 自著を語る (20) 未来へ手渡すHOUSING POLICY 大阪 住宅・まちづくり政策史 北山 啓三 3	• 大阪公立大学共同出版会事務局より 4
	• 編集後記 4

2017年の新春に想う

OMUP理事長 足立 泰二



脱知性時代だと言う。国際政治の世界でも、相手をやり込め、ヘイトスピーチまがいの暴言を吐き、勝てばそれでよし。経済界にあっても、儲かりさえすれば知恵が働いたのだ、世の中の流れを見る目があったのだと世にのさばる。ギャンブルがなぜ悪いと言わんばかりのカジノ法。スポーツ界でも、学術の世界ですら「儲かってなんぼ」の世界へと凋落の一途を辿っているのではないだろうか?

戦後70年が過ぎ、日本が歩んだ道は間違いだったとは思わない。むしろ、多様性を保持しての進展だったと思う。ところがどうだろう、このところの20年ほど、一極への収斂（いや、二極化？）とも言えるのではないか。勝ち組対負け組、多勢に無勢、すべてがコマーシャリズムに乗っかった世界に

なってはいますまい？

そう言いきれば、時代離れして人様の物笑いにもなったという、ドン・キホーテの例を引くまでもなく、正直者が馬鹿を見ると言った様子が、見え隠れするように思えてなりません。そんな風潮の中、ノーベル医学生理学賞の大隅良典博士が記念講演の中で「社会が科学を文化として楽しみたいもの」と述べたとの報道は、今の日本にこそ向けられたメッセージ、と受け止めるべきではないか。

脱知性とともに、一方では脱個性化、あるいは集団画一化が一段と進みつつあるようと思えてならない。効率性、利便性を重んずる余り、多様性、雑駁性を寛容しようとする社会には未来はない、と言っても過言ではなかろう。日本だけです、芸能でもスポーツでも、さらには学術までも、首都一極集中（敢えて、「中央集権化」とは言いたくもない）を一段と進めようとするのは。出版もどこにいても自由な自己主張が出来る場でありたいもの。

最近、明るい想いもしている。大阪府立大学I-siteなんばが先陣きって進めている「まちライブラリー」だ。紙媒体の本を介しての多様なコミュニティ展開。市民が多世代間多分野間と拡がりつつある。知性的である上に、それぞれが個性的である。「まちミュージアム」にも進展したらもっと面白いのにと、過ぎない程度の期待を持っている。

自著を語る（19）

古代ギリシャ語語彙集 改訂版 基本語から歴史／哲学／文学／新約聖書まで



Thomas Meyer,
Hermann Steinalth 編著

山口 義久 監訳
堀川 宏、
勝又 泰洋、
太田 和則、
隱岐-須賀 麻衣 訳
斎藤 憲 編集

ISBN978-4-907209-59-9 C1587

B 5 判、並製本、160頁
定価：本体3,000円+税

本書はホメロスの叙事詩から、ギリシャ悲劇、ヘロドトスに始まる歴史家、プラトンやアリストテレス、そして新約聖書まで、古代ギリシャ語で書かれた文献を読むために必要な、およそ六千の基本単語をまとめた、ドイツで長年使われている語彙集の翻訳です。

ギリシャ神話を持ち出すまでもなく、ギリシャ語は西欧文化の基盤の一つですが、日本での学習環境は厳しいものがあります。西欧では高校からギリシャ語を学べる国もありますが、日本では大学からです。必修ではなく、週一コマ一年間の授業で文法を習得するのは非常に大変です。一回の授業に5時間くらい予復習しないと追いつきません。4月には教室に百人いても、年度末の試験には5人しか来なかったりします。しかも本当に大変なのはその後です。苦労して名詞や形容詞や動詞の膨大な活用を記憶し、文法事項を学んでも、たとえばプラトンを読もうとすると（もっと易しいクセノフォンでも）、語彙力がないので1行に知らない単語が3つや4つはころがっています。2時間がんばっても5行しか進まない。こうなるとすっかり嫌気がさしてしまいます。

そこでこの語彙集の出番です。よく使われる単語の数は意外に少ないものです。本書の原著者解説によればギリシャ語では最頻出の一千語が文章の8割、三千語が9割を占めます。これを覚えてしまえば、辞書を引く回数はぐっと少なくなり、読書（解読？）もはかどります。この語彙集の特徴は、前置詞や代名詞や数詞などの基礎要素語、どの文献にも頻出する基本語彙の後に、分野・著者別に分かれた分野別語彙があることです。哲学、歴史、文学、新約聖書から関心のある

分野の語彙だけを学べます。

さらに基本語彙は同じ語根のものをまとめて掲載しています。これは他の語学の関係者にも参考になるかと思います。たとえば、「ロゴス」(λόγος) という語には物語、話、勘定、計算など多くの意味がありますが、この語彙集では語根を同じくする「カタレゴー」(καταλέγω, 列挙する)、「アポロゲオマイ」(ἀπολογέομαι, 弁護する) など10個の単語がまとめて掲載されています。カタログやアポロジーという同族の英単語もあげています（原著ではドイツ語の単語でした）。

本書は若い研究者が翻訳を分担して、ギリシャ哲学の山口義久氏（大阪府立大学名誉教授）が全体を校閲しました。言い出したのは私ですが、私自身は訳者ですらなく、訳者を探し、訳者に謝礼を払える予算を見つけてきたというわけです。動機は非常に個人的です。私が研究のために読むギリシャ語は数学書ばかりなので、語彙が限られています。それで自分の勉強用にこんな本が欲しいと思っていたのです。

幸い本書は古代ギリシャ語を教えていた先生方から、こういう本が欲しかったと好評を頂きました。その本は前から知っていた、日本語になってよかったね、という碩学の先生もおられました。

辞書や語彙集では組版の手間がコストを押し上げます。学習者が少ないギリシャ語ではこれは深刻です。そこで翻訳当初から、見出し語、活用語尾、訳語、訳語に付加した説明、括弧書きなどをすべて別々に入力するように訳者にお願いして、結果をエクセルのファイルにまとめ、そこからは私の書いた簡単なプログラムで（それでも日曜プログラマの私には大仕事でしたが）、xmlというファイル形式を経由してXeLaTeXという組版ソフトに渡せるように変形しました。出版会に渡すのは印刷するだけの校正済pdfファイルです。古代ギリシャとあまり縁のない作業に明け暮れましたが、これで本書は学習者の手が届く価格になりました。

大学の補助金を受けたので、年度内という絶対の締切りがあり、最後はほとんど徹夜となりました。こういう状況では不思議と精神が高揚するもので、仕事を終えると大きな達成感が得られます。私にとっては初めての経験でしたが、締切直前にいつも徹夜する人はこの快感が忘れられないでしょう。しかしこれは体に悪いし、仕事の質も上がりません。良い仕事をしたければきちんと段取りして、時間と闘うのではなく、時間を味方につけましょう。

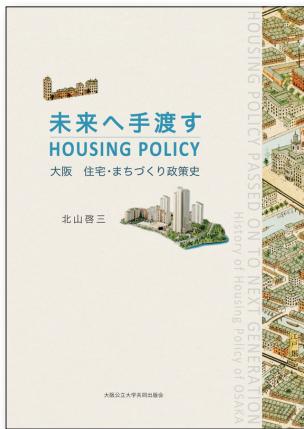
（文責 斎藤 憲）

自著を語る（20）

未来へ手渡すHOUSING POLICY

大阪 住宅・まちづくり政策史

北山 啓三 著



ISBN978-4-907209-61-2 C1060

B5判、並製本、230頁
定価：本体2,500円+税

この度、拙書『未来へ手渡すHOUSING POLICY 大阪 住宅・まちづくり政策史』を大阪公立大学共同出版会（OMUP）から出版して頂いた。

大阪市で長年住宅・まちづくり事業を担当してきた筆者は、退職以来、大阪が有する住宅・まちづくり政策の先進的な歴史を通史としてまとめておく必要があると考えてきたが、今回多くの人々のご協力により出版する事が出来ホッとしている。

OMUPに出版をお願いした経緯は、多くの仕事を一緒にしてきた大阪市立大学名誉教授で大阪市立住まいのミュージアム館長の谷直樹さんたちが先に『生きている長屋 一大阪市大モデルの構築』という素晴らしい本をOMUPから出版されておりご紹介頂いたことと、私の本の前半の重要な部分であり我が国の住宅政策の源流と筆者が記述している大阪市の名市长 關一が、「大学は都市とともに、都市は大学とともに」との思いを持って力を入れて来られた大阪市立大学と大阪府立大学の先生方によりつくられた出版組織であること、また

大阪の歴史を紹介するのにふさわしい大阪の出版会であることからOMUPに是非お願いしたいと考えたからである。

本書の構成をご紹介すると、先ず第1章は戦前の住宅政策について記述している。近世の大坂には優れた町家・長屋が立ち並びかつモジュールが統一されていたことや、借家が多くしかも戸締りの建具以外畳や室内の建具は借主が用意するいわゆる「裸貸し」であり中古建具が流通していたこと、また町並みのコントロールや橋等の維持管理も町人自治で行われるなど今日から見ても極めて先進的であったことなどを紹介している。さらに近代においても大阪市は、経済発展に伴う人口の集中の中で生じた都市問題を解決するため、關一市長のように欧米の知識をいち早く取り入れ、国に先がけて政策提案を行い、都市計画法や市街地建築物法の制定、土地区画整理、不良住宅地区の改善につなげていったという優れた先進的なアイデンティティーを有していることを紹介している。なかでも我が国の住宅政策の源流であり巨大な山脈である關一の住宅政策の紹介・分析が相当部分をしめている。

第2章は戦後復興期の住宅政策について記述しており、戦災で大半の市街地が焼失した復興期においても、厳しい財政事情の中で、先人たちの大変な努力により、多くの公共住宅が建設され、市民生活の安定に大きく寄与したこと。そしてその結果、今日大阪市の公共住宅ストックは全国的にも最上位にあることを紹介している。

第3章から第5章は、近年における人口回復のための政策や大規模な住宅地再開発、都心居住促進のための住宅容積ボーナス制度、密集住宅市街地整備、住まい情報センターや住まいのミュージアム、歴史を生かしたHOPEゾーン事業、マンション管理支援機構など多様な住宅・まちづくり政策をデータや写真を出来るだけ掲載し、企画・立案の過程も含めて紹介している。

今後の未来を拓く若い人達や住まい・まちづくりに係る専門家の方々、多くの市民の方々に読んで頂ければ筆者として望外の幸運である。

平成28年秋 北山 啓三

新刊書の紹介



ぬいぐるみ遊び研究の分水嶺 —自我発達と精神病理—

中井 孝章・堀本 真以 著

ISBN978-4-907209-62-9 C3011

A5判、上製本、130頁
定価：本体2,000円+税



OMUPブックレット No.58
「みやざき自然塾」シリーズ6
「サカラメンタ提要」が語るもの
—ザビエルが伝え、残したものー

ISBN978-4-907209-63-6 C1373

A5判、並製本、62頁
定価：本体500円+税

『上智大学国際シンポジウム報告の抜粋復刻版』

第33回OMUPサロン「ギリシャ語の魅力と『古代ギリシャ語語彙集』」の報告



OMUPサロン当日の様子

第33回OMUPサロンが2016年9月24日（土）午後3時から、ジュンク堂書店難波店3階特設会場において開催されました。演者は、本年にOMUPから出版された『古代ギリシャ語語彙集』を監訳された山口義久大阪府立大学名誉教授とその翻訳の中心となっておられた堀川宏京都大学講師で、「ギリシャ語の魅力と『古代ギリシャ語語彙集』」というタイトルで約1時間半話してくださいました。

ギリシャ語を学ぶ際には、ギリシャ語の辞書を引くのが難しいという問題があり、多くの学生が途中で挫折してしまいます。その問題を克服するためには、使用頻度の高い語彙のみを載せた辞書があると便利なのですが、日本語訳された辞書にはそのようなものはありませんでした。『古代ギリシャ語語彙集』はその問題を克服するために出版され、これまでのところ、とてもよく売れており、OMUPのベストセラーになっています。この語彙集を出版できることには、この語彙集の編集の中心となった斎藤憲大阪府立大学教授が、ドイツ語で記されたそのような語彙集に出会えたこと、斎藤教授がかつてイタリア語の辞書の編集に携わっていて、辞書作りの経験を持っていたこと、大阪府立大学が、21世紀科学研究機構の一つとして西洋古典学研究所の設立を認めてくれ、わずかとはいえ、翻訳作業を援助してくれたこと、京都大学や早稲田大学の学生が翻訳作業を引き受けてくれたこと、彼らが翻訳してくれたものをネット上で編集できるシステムを斎藤教授がつくり出したこと、大阪府立大学が出版助成をしてくれたことが大いに貢献しています。そういう事情を山口先生、堀川先生は説明され、本当の西洋古典を自ら学んでみたいという人、また、それを楽しむ人が育ってくれればと語られました。

『古代ギリシャ語語彙集』の成功には、上記のことにも加え、監訳された山口名誉教授の日本語に対するセンスのよさも貢献していることはまちがいありません。また、翻訳の中心となってくださった堀川先生がまだ比較的若く、この辞書が今後少しずつ修正を加えながら、版を重ねていってくださることを期待できることも、この辞書の魅力の一つとして挙げることができるでしょう。この『古代ギリシャ語語彙集』が長く使われ、親しまれるようになってくれるであろうことを予感させてくれるサロンでした。

（文責 中村 治）

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加によって成り立っているNPO法人です。本会は、研究・研究成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、次のような事業を行っています。

- (1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
- (2) 会員の学術図書の刊行頒布
- (3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

参加を希望される方は、下記事務局へお問い合わせください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学中もずキャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局

電話：072-251-6533 フaxシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

URL：<http://www.omup.jp/>

入会金：一口一万円（終身会費）

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編集後記

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変にお世話になりました。今年もどんな良い本にめぐり会えるかと楽しみにしております。皆さんのお役に立てるよう継続して努力していく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（文責 児玉倫子）